

「クリーニングドクターの豆知識」その7

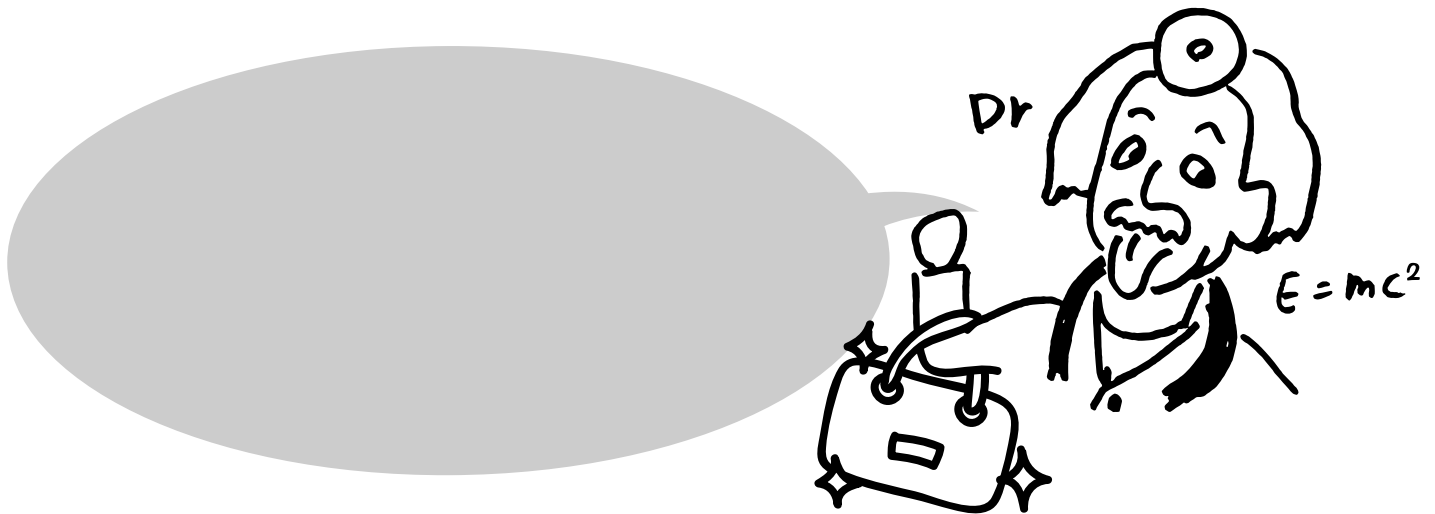
そのバッグ・どうやって修復する???

まず革の財布やバッグについて知っておいて欲しい基本的なことがあります。

- ① 服と違って、汚れたら洗うことを前提には作られていない
- ② 革の性質上、しみぬきや漂白がほとんどできない・熱に弱い・色が落ちやすい
- ③ クリーニングと色修正は全く別の作業



革コートなどの衣類ならともかく、財布やバッグなどは「汚れたら洗って使う」ことは想定して作られていません。カード入れ・小銭入れなどのポケットがたくさんあって革が幾重にも重なっている品は、乾燥ひとつとっても容易ではありません。でも我々は洗いますけどね・・・



バッグ類の場合は衣類や靴と違って、直接肌には触れません。ですから皮脂・汗・食べこぼしなどが原因のトラブルは普段ありません。バッグで多いのは■縁や四隅のスレ・汚れ■日焼けや水シミなどの変色・色あせ■マジック・ボールペン等のインク付着■取手の黒ずみ■ジーンズとの摩擦で色移り・・・などの【色】の問題がほとんどです。これが布のバッグなら洗えばほぼ解決しますが、革の場合は「色修正・染色」で修復するのです。

ちょっと専門的な話になりますが、革の染色には「顔料染め」「染料染め」の2種類があります。

「顔料」とはペンキやファンデーションみたいなものだと思ってもらえればわかりやすいでしょう。

ペンキですから、革の表面に「塗る」形になります。内部には浸透しません。全体的に均一な仕上がりで色むら・インク・しみなどを覆い隠してくれます。まさにファンデーションの役割ですね。

ただ革の表面を覆うので、あとでオイルを塗るなどの手入れができません。ファンデーションの上から化粧水を付けることができないのと同じことです。

「染料」は布を染めるあの「染料」です。水に溶かしてその中に革を漬け込み、または刷毛で塗ります。革の内部まで染料が浸透します。あとからオイル等で手入れができるので、革が長持ちします。

(ちなみに当店で染料染めは、オイルの塗りこみまでやるので革が柔らかくなります)

ただ表面を覆い隠すわけではないので、革のシワやキズを隠す事はできません。それを「欠点」と見るのか、「革の持つ自然な風合いや表情が生きる」と見るかはその人次第です。

染料染めの革と顔料染めの革、2種類のサンプルを店頭を用意しています。見比べるだけでも3回くらい「へえ～」と思うでしょう(笑)。ご興味のある方は何でも訊いてください。なんとなく飽きたバッグなどは、思い切って全く別の色に染め替えてみると面白いのでは?

古川クリーニング

宮崎市瀬頭2丁目2-14
お問い合わせは

0985
22-7808